



2012年1月27日

通巻 1179 号

発行：金沢大学教職員組合執行委員会
〒920-1192 金沢市角間町
TEL076-262-6009 角間内線2105
E-MAIL kanazawa@ku-union.org



金沢大学版 地球の歩き方

《Yukon, Larger than Life》

カナダ ユーコン準州 ホワイトホース

結城 正美 (外国語教育研究センター)

Yukon, Larger than Life ——人生よりも大きな場所、あるいは、人生を包み込む土地。ユーコンの随所で目にするこの言葉、はじめはピンときませんでしたでしたが、数日間の滞在中にその意味が実感されました。

ユーコン準州はカナダ北西部にあり、アラスカに隣接しています。面積は日本の約1.3倍。人口は準州全体で約3万、そのうちの2万人余がホワイトホースに住んでいます。

私がホワイトホースを訪れたのは2011年12月初旬。本学の英語研修先の開拓のため、ホワイトホースにあるユーコンカレッジ（以下YCと略）を訪問しました。カナダに本学の語学研修先が欲しい、という学生の要望に応えたいと思い、東京のカナダ大使館で開かれたカナダ留学フェアで情報を収集し、YCが最適と判断したわけです。その理由は、(1)日本人が少ない、(2)すぐれた授業内容、(3)都市文明と異なる価値観、にあります。

なんだか「地球の歩き方」というよりも出張報告のようになってきましたね。けれども、上記3点を説明することでユーコンの魅力がおわかりいただけると思うので、続けます。

カナダは英語研修先として超人気で、上述のカナダ留学フェア也大盛況でした。とはいえ、1ヶ月足らずの語学研修で日本人が多い場所に学生を送るのは教育効果上いかなものか…と考え、日本人居住者や留学生が少ないということを研修先の選定基準の一つにしました。そうすると、バンクーバー、トロント、モントリオールなど大きな都市はアウトです。ここでユーコンに目が留まりました。ホワイトホースには日本人居住者が少なく、日本からの留学生も、なんと片手におさまる数なのです。オーロラ鑑賞ツアーなどで日本から観光客は来ますが、日本人居住者の数がこんなに少ない場所はそうありません。

次に授業内容ですが、せっかくユーコンで学ぶのだから、ということで、地元が誇る自然や先住民文化を学ぶ機会を織り交ぜた英語プログラムが提供されています。既に早稲田大学と明治大学が、それぞれ8月と2月にYCでの研修を開始していますが、早稲田は英語で野外活動を行うアウトドアリーダーシップ養成プログラム、明治は教室での授業を主としつつユーコン文化を体験する内容のようです。金沢の場合は…乞うご期待！



▲ユーコン川

ユーコンでは都市文明とは異なる価値観に日常的に触れることができます。無論、ホワイトホースはウォルマートが進出し、マクドナルドなど主要フランチャイズも軒を並べているので、都市文明の影響を受けていないとはいえませんが、それでもこの土地特有の価値観が根付いています。

その価値観を説明することは難しいのですが、ホワイトホースで出会った人には、人生で何が大切なのかを見極めている人がじつに多かった、と言えるおわかりいただけるのではないのでしょうか。



ホワイトホースは余裕と活気に満ちており、日本の田舎町と全く違います。2時間も歩けばダウンタウンを網羅できてしまうほど小規模であるにもかかわらず、至る所にカフェがあります。アート系のお店もたくさんあるし、本屋も充実している。田舎町に漂うさびれた雰囲気もなければ、都市のせかせかした感じもあります。こだわりの店のオーナーたちは、ユーコン育ちの人もいれば、他所から移り住んだ人もいるとのことですが、いずれにしても、資本主義的価値観とは異質なものの考え方を持っていました。

人生で何が大切なのかを見極めている——それは、YCの教職員と話しているときにも感じました。

たとえば、リサーチセンターのセンター長。ユーコンで生まれ育った彼は、故郷を離れて大学教育を受け研究者としてキャリアを積んでいましたが、数年前に戻ってきたそうです。リサーチセンターには環境分野のプログラムがいくつかあり、他の大学から共同研究者が訪れるほどすぐれた研究がなされているようです。でも、ここはカレッジ。1～2年生しかおらず、最先端の研究を教育に還元する環境にはありません。また、研究者としての高い社会的・国際的評価も期待できません。共同研究や地域連携について熱く語るセンター長の話に耳を傾けながら、「どうしてもっと大きな大学で研究なさらないのですか」と思わず訊いてしまいました。すると、「小規模だからアイデアをすぐに実行に移すことができるのです」と即答が返ってきました。



▲コーコンカレッジの昼休み

YCの学長は、カレッジをユニヴァーシティにしようという構想を抱いているようですが、教員の反応はいまいちだとか。小回りのきく小規模の良さを多くの教員が誇りに思っているのでしょう。

研究成果を地元が必要とする知識や技術として提供する——そのような考えがYCでの研究生活を選んだ人たちに共有されているのでしょう。研究業績をあげようなどという考えとは無縁で、大学ランキングも問題にせず、地域との連携、地域への貢献こそが自分たち研究者のミッション、と語るセンター長の研究への情熱と場所への想いに接し、同じく研究に従事し地元・石川育ちの私は多くのことを考えさせられました。

さて、ここで驚きの事実をひとつ。みなさんはいつも何時に帰宅しますか。遅くまで大学に残っている方は少なくないでしょう。YCの定時は5時だそうです。残業する人はほとんどいないとのこと。職員だけではなく、実験装置がキャンパスにある研究者も定時には帰宅するそうです。家族や友人と過ごす時間が大切だから残業はしない——何が大切かを見極めている人たち、価値観がぶれない人たちなのです。

「東京の学生はホームステイ先で、毎晩家族そろって食卓を囲むという事実には衝撃を受けるようです」と、YCの英語研修コーディネーターが話してくれました。家族や友人との時間を何よりも大切にするユーコンの人々。そういう人たちとの出会いは、現代の都市生活のあり方を再考する貴重な機会となるにちがいありません。

最後に、ユーコンといえばオーロラ。冬はオーロラがきれいに見えるのでは…と大いに期待していましたが、曇りや雪で難しいそうで、私も残念ながらチャンスに恵まれませんでした。オーロラがもっともよく見えるのは、なんと9月中旬とのこと。本学学生を対象とする英語研修は9月を考えているので、オーロラを見る確率は高そうです。

自然での経験や人との出会いをとおして、人生で何が大切なのかを考えさせられる場所——ユーコンはまさしく Larger than Life! 学生にも行ってほしいけれど、人生の壁に直面している中高年の方々にとくにオススメの場所です。



▲午前8:50のキャンパス



▲サンタクロースご夫妻と一緒に

紹介します！

里山里海プロジェクト

水口 亜紀（地域連携推進センター）

地域連携推進センターの「里山里海プロジェクト」をご存知ですか？ 能登半島の先端・珠洲市の「能登学舎」を拠点に、能登の地域振興を目指して人材養成など複数の事業を展開しています。

私が担当する交流事業「里山里海アクティビティ」は、能登をフィールドに、里山里海を活用した教育や交流活動の企画運営、コーディネートをしています。例えば、金沢大学であれば共通教育の里山／里海体験実習や、地域創造学類のエクスカッション、留学生の体験ツアーなど。県外では、長野大学の環境ツーリズム学部の実習、滋賀県立大学の合宿、JICAの里山研修など、さまざまです。

先日は、輪島の金蔵という棚田が美しい里山集落で、「能登のおコメ産地訪問ツアー」と題して1泊2日の企画を実施しました。参加者は学生、教員、行政マン、研究者、NPO関係者など多彩な顔ぶれ。

1日目は「棚田米の食べ比べ」をテーマに、奥能登でウマイと評判の3集落の米をマジメに鑑定（の真似事）。ご飯に合う地元のおかずを肴に、地元の方たちといろんな話をしながら夜が更けていきました。

2日目は、田の神様に稲の収穫を感謝し自宅でもてなす伝統行事「アエノコト」を体験学習。観光化されたものではなく、地域で普通に、各家庭で行われている実際を垣間見ることができ、参加者のみなさんはもちろん、私自身にとってもたいへん貴重な機会となりました。



▲2時間目の準備体験

●アエノコトの授業●

- 1時間目：「あえのこと」基礎講座
- 2時間目：田の神をお迎えする準備体験
- 3時間目：田の神様をお迎えする実習
- 給食：あえのこと風ランチ
- 4時間目：「金蔵のあえのこと」調査実習
- ホームルーム：シェアの時間



▲4時間目は地域の方を訪ねてお話を聞きました



▲地域の食材を使った御膳料理



▲1日目は棚田米食べ比べ

里山の美しい風景を生みだしている「農業」。その中心である米づくりから、里山の未来をつないでいければと願っています。そこで、この金蔵地区では、今春から一般参加型で米づくりを行います。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

そのほか、ゼミやサークルの合宿・実習、研究会や研修、視察などのコーディネートもお手伝いします。能登で自然と共生した暮らしや、里山里海の癒しを体感しませんか？

⇒イベント情報はHP、ブログをご覧ください。

<http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/activity/>

●参加された方のご感想●

お宅訪問などを通じて、地域の多くの世帯が高齢の夫婦のみや単身で暮らしていることを改めて知り、村落さらには「あえのこと」のような行事を存続していくために何ができるかということを、より身近な問題と感じた。（人文学類：宮下博幸）



初日の夜、農家さんといっしょに食事し、米づくりの苦労に限らず、普段の生活や考えていることについて、あれこれ話が聞けたのが印象に残った。2日目は盛りだくさんの内容かつ参加・体験型でよかった。（外国語教育研究センター：佐藤文彦）

おすすめの♪

ちよっぴいほ店

BAR SHIRASAGI

松田 洋介

今回は、新天地にある Bar Shirasagi を紹介します。ラブロ片町の裏側から新天地に入り、左手に「火一ト」や「赤城」を横目に少し進むとぶつかる分岐点に位置する白い扉のお店です。新天地、それも外から店内が覗けないので、慣れていない人には少し勇気が必要かもしれませんが、思い切って扉を開けてみて下さい。優しいマスターが丁寧に作りあげた、緩やかで落ち着いた空間がそこに広がっているはずです。

店内の灯りはキャンドルベースでほの暗く、白壁には常に名作映画が投写されています（座席数はカウンターが6～7席、テーブルが7～8席程度でしょうか）。先日は、1920年代のドイツ映画「最後の人」が上映されていました。マスターとのぼつりぼつりとした会話を楽しみながらグラスを傾けている女性、同窓会の二次会で来たのか昔話に興じる6人組。思い思いに過ごしています。隠れ家のような2Fにはさらに幻想的な雰囲気が広がっており、広い窓から、新天地を行き来する人々を上から眺めながら過ごすこともできます。その洗練された空間を見ると、自らが発信源となり、金沢の街の文化をつくっていくという思いも感じられます（実際にマスターは「白鷺美術」として活動もされています）。

このように書くと、自意識過剰の客が集うオサレ志向のお店かと思う向きもあるかもしれませんが、決してそんなことはありません。客層は雑多で、（非若年）女性の一人客も多く、皆、適度に緩い。常連でなくても問題なしです。その日は寒かったので、ホットワインとホットウィスキーを飲みました。暖まりました。深夜1時を過ぎていましたが、店内にはまだ人が残っていました。

★★BAR SHIRASAGI Data★★

住 所：金沢市片町2-4-1

T E L：076-231-4550

営業時間：20：00～翌日2：00

火曜定休

※場所の詳細は

<http://www.kanazawa-shintenchi.com/>

をご覧ください。



*
編集
後記
*

『ゆにゆに』新年号をお届けします。新年会でお配りしたいので、という強引なお願いに、短い時間で素敵な原稿を書き上げてくださった結城さん、水口さん、松田さん（掲載順）にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。ご紹介いただいたのは、どれも心惹かれる場所。お忙しい方も、ぜひ2度目の初夢(?)で訪れ、大人の休日を楽しんでいただければと思います。(K)